



CQM(超短期経済予測モデル)

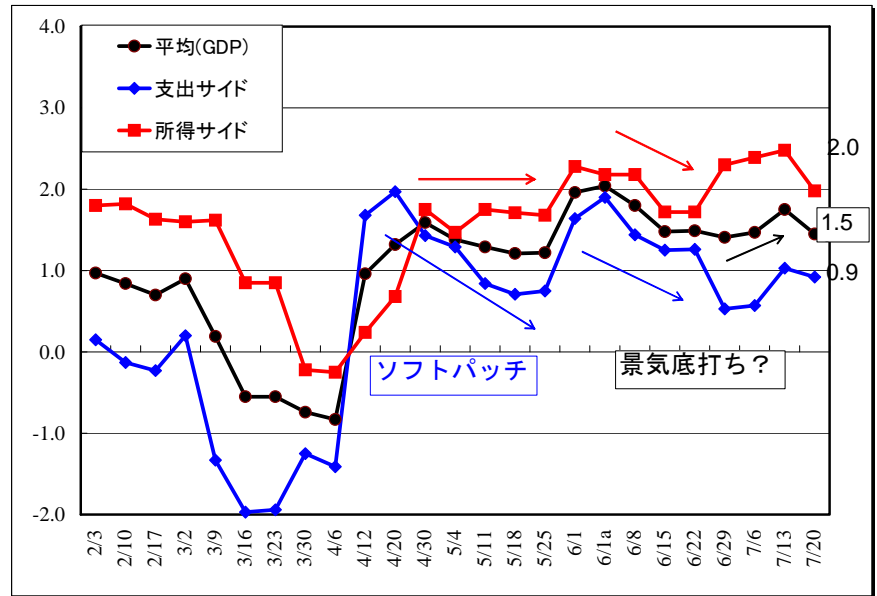
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年7月20日)

ポイント

- ▶今週の CQM が 2012 年 4-6 月期 GDP(速報値)の最終予測となる。
- ▶CQM 予測の経験から GDP 速報値は支出サイドからの予測値に近くなることが多く、GDP 改定値は支出・所得の両サイドからの平均 GDP に近くなる傾向がある。
- ▶ 米経済分析局 (BEA) は GDP 速報値を計算するために 6 月の企業在庫、輸出入、建設支出、耐久財出荷などを仮定しなければならない。その時に最も難しいのは製造業在庫と輸入であろう。
- ▶4-6 月期の経済成長率は前期より低くなる可能性が高い。その時、市場は景気に対してより悲観的になり、更なる金融緩和を期待するようになる。
- ▶しかし、7月31日のFOMCミーティングで更なる金融緩和政策、特にQE3が導入される可能性は小さいと思われる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<2012年4-6月期GDP(速報値)のCQM最終予測>

7月20日のCQM予測は5月の企業在庫、6月の生産者価格指数、小売販売、鉱工業生産指数、消費者物価指数、住宅着工件数を更新した。今週のCQMは2012年4-6月期の実質GDP伸び率予測を支出サイドでは1.03%から0.92%へ、所得サイドでは2.48%から1.98%へそれぞれ下方に修正した。また両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.75%から1.45%へと下方に修正された。

今週のCQMが7月27日に発表される2012年4-6月期GDP(速報値)の最終予測となる。CQM予測の経験からGDP速報値の伸び率は支出サイドからの予測値に近いことが多く、改定値は支出・所得両サイドからの実質GDP予測平均値に近くなることが多い。米経済分析局(BEA)はGDP速報値を計算するために、6月の企業在庫、輸出入、建設支出、耐久財出荷を仮定しなければならない。今回のGDP速報値の計算で難しいのは6月の製造業在庫と輸入であろう。CQMはARIMA(時系列モデル)から前者・後者の伸び率をそれぞれ-0.14%、-0.49%と予測している。CQMは所得サイドからの実質GDP伸び率を支出サイドより約1%ポイント高く予想していることから、GDP改定値発表時(8月29日)に統計上の誤差がかなり大きくマイナス方向に調整されるだろう。

GDP速報値の発表により、4-6月期の経済成長率は前期より低くなる可能性が高い。その結果、市場は景気に対してより悲観的になり、更なる金融緩和策への期待が高まるであろう。7月31日のFOMCミーティングにおいて、ハト派エコノミストの声が高まることは間違いない。しかし、4-6月期の経済成長率が1%~1.5%程度であれば、無理に連銀は更なる金融緩和策を導入しないだろう。やはり、欧州債務危機、中国経済のスローダウンなどによる外的環境の悪化による米景気への後退懸念が明確になるまで更なる金融緩和策、特にQE3を導入することはないだろう。あるとすれば、連銀のリザーブへの支払い金利の引き下げ、緊急ローンの窓口を通しての貸付拡大、コミュニケーションツールの使用だろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550